

台風進路予報の改善について

近年の数値予報モデルの改良やひまわり8号等の新たな観測データの活用により台風進路予報の精度が向上したことを踏まえ、台風の進路及び暴風警戒域をより絞り込んで予報します。

気象庁は、台風の進路予報において、台風の中心が70%の確率で入ると予想される範囲を「予報円」として、台風の中心が予報円内に進んだ場合に風速25メートル以上の暴風となるおそれのある範囲を「暴風警戒域」として示しています。

近年の数値予報モデルの改良やひまわり8号等の新たな観測データの活用により台風進路予報の精度が向上したことを踏まえ、平成23～27年の過去5年間の台風進路予報の成績を検証した結果、予報円の半径を約20～40%小さくすることが可能となりました。これに伴い、暴風警戒域についてもより絞り込んだ予報が可能となります。(別紙参照)

今後発生する台風について、この改善を行った予報円及び暴風警戒域で進路予報を実施します。

気象庁は、今後も数値予報の精度向上を図るなど、台風進路予報の改善に努めてまいります。

【台風の進路予報】

<http://www.jma.go.jp/jp/typh/>

[本件に関する問い合わせ先]

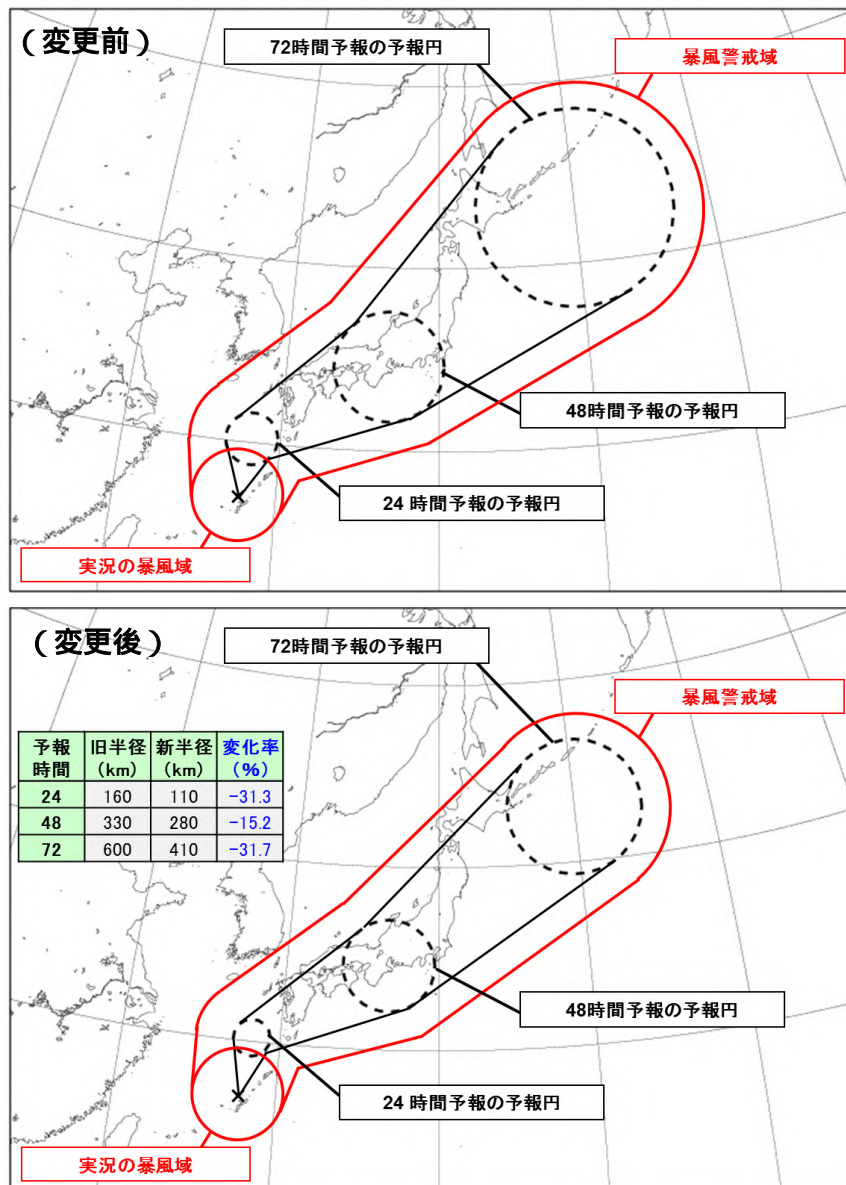
気象庁予報部予報課

アジア太平洋気象防災センター

03 - 3212 - 8341 内線 3137

台風進路予報における予報円の改善

例：2014年台風第19号



【台風の予報円について】

台風の予報円の大きさは、過去数年間の台風の進路予報の成績から、台風が進む方向や速度に応じた値をあらかじめ設定しています。台風の進路予報の際には、その進む方向や速度の予測に応じた大きさの予報円を表示しています。

この予報円の大きさは、数年間の予報成績を踏まえて随時見直しを行っており、前は平成20年(2008年)に見直しを行いました。

近年の台風進路予報の成績の向上を踏まえて、平成23~27年の過去5年間の予報成績を反映して改善し、半径をこれまでと比べて約20~40%小さくすることが可能となりました。また、この予報円の改善に伴い、暴風警戒域についてもより絞り込んだ予報が可能となります。